

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成30年度第3回情報教育研究委員会合同会議議事記録
情報教育研究委員会、情報リテラシー・情報倫理分科会、分野別情報教育分科会

I. 日 時：平成30年7月13日（金） 17：00～19：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会会議室

III. 参加者：大原委員長代理、笈トバ伊、玉田主査、高岡委員、金子委員、中西委員(Skype)、
児島主査、角田委員、渡辺トバ伊(Skype)
事務局：井端事務局長、野本（記）

IV. 検討事項

ICT 戦略大会分科会での提案に向けて、授業シナリオ・反転教材、専門教育との連携実践報告、推進方策などの内容を確認した。

1. 授業シナリオ・反転教材について

(1) 到達目標 A

- ・ 解決策発想過程では、高額な罰金を科す（経済）、アプリ制御技術などを入れてはどうか。
- ・ 領域固有の知識について初年次で学修するところまでができるのか、自分で調べることをコメントで入れてはどうか。
- ・ ワークシートでは、事件・事故の実例を新聞データなどから調べさせてはどうか。また、対策は5つ以内とし、理由を記述させたはどうかなどの意見があった。

(2) 到達目標 B

- ・ ワークシートに有効性と問題点それぞれ3件とし、虫食い形式にしてはどうか。
- ・ 利便性と危険性の定時も、虫食い形式にしてはどうか。
- ・ 情報を適切に扱う部分では、他者の発信した情報はコントロールできなく、偏った情報にもなることなどあるが、ワークシートのこたえでもあり、記述数を減らしてはどうかなどの意見があった。

2. 専門教育との連携実践報告について

- ・ 今回試行した授業結果の簡単な報告から試行結果に基づいた今後の改善策を説明する予定とした。
- ・ プレゼンの段階で課題が見えてくることから次回は4回での実施を考えている。到達目標・到達度との対応や初年次教育でこのような学びを行っていれば、ここまでの学びまでできたのではないかの期待も含められないかなどの意見があった。

3. 教材有効性の検証について

- ・ 委員中心の評価と大会参加者評価の2段階で評価を考えてはどうか。
- ・ 評価シートの設問案を提示して検討を行い、一部分修正の意見があった。

4. 学修到達度の評価基準・方法について

- ・ ルーブリックを作成し、到達点と理解度の組み合わせで検討してはどうか。
- ・ 評価は、年次の段階的な対応、振り返り用ポートフォリオ化、フォローの対応など具体的な支援の仕方が課題としてあげられた。

5. ガバナンスに対する理解度促進について

- ・ ディプロマ・カリキュラムポリシーへの組み込みへの理論武装と教員連携を呼びかける戦略について提示され、現場で主張してほしい、現場で展開してほしいが大学での実効性が懸念されるとの意見があった。
- ・ 現状のリテラシーの切り口を変化させることを含め、本協会がセンター的な機能を持ち、ネットでの学修環境などが検討できないか。

V. 今後のスケジュール

- ・ 次回の委員会は、8月6日10時から開催し、継続検討する。